

第 68 回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日 時 平成 31 年 3 月 29 日(金)14:00～15:15

場 所 横須賀市役所 会議室 A

出席者：秋岡委員、石川委員、蛭田委員、西堀委員、藤井委員、
吉田（彩）委員、吉田（秀）委員

傍聴者：1 名

事務局：文化振興課 佐々木課長、松田課長補佐、宇野主任

- ・事務局より、傍聴者 1 名との報告があった。
- ・事務局より、定足数についての報告があり、委員定数 10 名のうち 7 名が出席しており、過半数を満たしているため、本審議会が有効に成立している旨の報告があった。
- ・規定により、委員長を議長とし、次第に沿って進行した。

【審議事項】

次第 1 平成 31 年度事業予定について

事務局から資料 1 により説明を行った。

○質疑応答

委員 予算額 11 億の中で芸術劇場・文化会館の管理が 7 億円とかなり大きな額を占めている。芸術劇場は、横須賀芸術文化財団に指定管理者として管理してもらっているが、そういう大きな事業の部分が書類からは詳細が見えてこないため、どういうバランスになっているのか分かりにくい。指定管理の方で大きな変化があるのか、あるいは例年通りの進め方なのか。

事務局 文化振興課所管の予算総額のうち半分以上、かなり大きな部分を占めているのが、芸術劇場・文化会館・はまゆう会館の経費になる。これだけ金額が大きいのは、施設の運営、維持・管理に予算がかかるためである。事業を実施してもらう金額も入っているが、事業に関しては指定管理者が実施する部分もあるため、全てがここに計上されているわけではない。芸術劇場・文化会館・はまゆう会館を維持し、修繕していく経費が大きくかかっている。前年度と比較すると、2 億 1,300 万円ほどの減額となっている。どこが変わったのかということだが、維持・管理として、芸術劇場は 25 年、文化会館・はまゆう会館は何十年

と経過しており、施設を維持していくにあたり、毎年必ず修繕をしていかないと、市民に利用していただくためのきちんとした形にならない。具合の悪いところを一度に修繕するには、予算が厳しいので、順序を考えて、年度ごとのバランスの中で、前年度比2億1,300万円減額となっている。今後ずっと減額していくということではなく、毎年のバランスの中で、前年度より減額になったということである。

委員

説明する際に、資料1と2があるなら、資料2を先にして、市の文化振興で来年度どういことをやるのか、新しいことをやるなど、方針を示したうえで、細かい予算の話をした方が良い。そうでないと資料1で何を意見して良いかが分からない。資料2の方針を見たときに、資料1で何を見ようか、今年が目玉は何か、平成30年度はやったけど、31年度やらないものは何かなど、そういったことの説明があると、市民として分かりやすい。

教えてほしいことが2つあり、1つは、ルートミュージアム整備事業(5)と(6)と2つあり、(5)②に工事監理があるが、これは工事に含まれてやるものではないのか。2つ目は文化会館等の管理で、2・3ページを見る限り、同じものが2つある。これは何が違うのか。

事務局

ルートミュージアム整備事業について、(5)と(6)は市の事業の中の区分けになっていて、本来は一緒にしても良かったと思っている。最初の資料作成の時点でもう少し分かりやすくすべきだったが、一緒に事業と考えていただいて結構である。分けている理由としては、(6)が平成30~32年度の継続事業としているものである。ヴェルニー公園にティボディエ邸を活用したガイダンスセンターを建設する予定で、建築にかかる経費や工事の建築費が年度をまたぐので、継続事業としている。それ以外の(5)は単年度で行っていくものである。ガイダンスセンターの中の展示物の設計・製作や、ガイダンスセンターの中にVRを活用したシアターを製作しようとしている経費の他、案内をするガイドを育成する経費を含めている。(5)②工事監理は本来(6)に入るべきものである。予算立ての段階でタイミングがずれてしまったが、建物が設計通りに進んでいるかを確認するのが工事監理なので、本来は(6)に入れるべきである。

委員

工事監理は毎年やる人が変わるのか。

事務局

平成31年8月までに設計を終えて、10月から来年の夏まで建設工事をしていく。同じ期間に工事監理は1社が継続して行う。

委員 以前、文化会館・はまゆう会館の将来計画があったと思うが、現在はどう位置づけられているのか。

事務局 数年前に施設配置適正化計画という、公共施設の総量を減らしていくという趣旨のもとで今後の耐用年数等を考えて縮小していく計画があったが、市議会に提案していく中で、少し説明が足りなかったり、市の内部での詰めが足りなかったりしたこともあり一旦計画を破棄した。議会で理解を得て議決をすることができなかった。市長が代わり、ファシリティマネジメントという動きを昨年度からしている。担当課を設けて視点を変えて新たに施設をどうやって維持していくか、ある程度寿命が来た施設を壊していく、統合していく、新たに造っていく、そういう計画が改めて進んでいる。前回の計画と考え方は多少違うが、長く行政を行っていくために、最大限の市民サービスを提供していくためには、いずれ、あるべき施設を削減・統合していくというのが1つの方向性である。

委員 (5) ルートミュージアム整備事業について、昭和25年から32年までの約7年間、浦賀ドックでインドシナ戦争の時のフランスの軍艦を20隻ほど、修理をした。その時の資料をたくさん持っていて、関係した通訳や秘書から預かった資料が段ボール1箱分ある。ルートミュージアムに入れてもらえるのであれば、すぐに提供できる。幕末から明治にかけて、フランスの造船技術が日本に導入された。第2次世界大戦後に日本の技術をフランスへ軍艦修理のため、恩返しのためにと、技術交流があった。ハードなことは、横須賀開国史研究会に修理に関わった方が健在で、その当時の経過を書かれたものがあるが、市民との交流が盛んで、ホームステイをやっていた。フランスと市民レベルの交流が盛んなので、記録に残していただきたい。フランス水平の帽子等も残っている。フランス兵から通訳にいただいた灰皿や50年以上前のマッチなどもある。先日は浦賀に子孫の方が来られて、その当時の写真を展示した。日仏交流として、役に立てることがあると思うので、検討してもらいたい。

(3) ③横須賀ゆかりの歴史上の人物の小冊子について、市民レベルで紹介してほしい人物がいた場合は、どのようにしたらよいのか。例えば、横須賀造船所にいた清水誠はフランスに留学し、帰国してから日本初のマッチ工場を造った。こういう人物も積極的に取り上げていただきたい。幕末から明治初期は、学問をやるために、横須賀へ来ていた。東大工学部の学生も横須賀へ見学に来たり、科学技術の中心だった。輝いていた時代を皆さんに知っていただきたい。

事務局 フランスとの戦後の浦賀ドックの歴史について、地元でも交流の歴史をされた展示会があった。今後も必要に応じて検討させていただきたい。小冊子も、ヴェルニーや小栗上野介、中島三郎助などを子ども向けに紹介している。参考にしたい。また、横須賀製鉄所や浦賀奉行所に関する出前授業も行っている。そういったところで、横須賀の輝かしい歴史を子どもたちに伝えていきたいので、参考にしたい。

委員 2の市民文化活動支援事業の(3)文化団体支援事業について、文化団体は何団体あるのかが分かると良い。

事務局 横須賀文化協会という市内の様々な文化団体を取りまとめている団体にのみ補助金を交付している。横須賀文化協会に関しては、文化団体が23団体加盟している。

【審議事項】

次第2 横須賀再興プラン（横須賀市実施計画）における文化振興に関する新たな取り組みについて

事務局から資料2により説明を行った。

○質疑応答

委員 下田市や横浜市の金沢藩には、ペリーが来航した時の資料が大量にある。そことの連携は事業の中に入ってくるのか。

事務局 下田市・函館市とは、一度現地に行き、どのような連携ができるか打ち合わせをしている。下田市は下田奉行所跡地があるが、現在は公園になっていて、奉行所自体も長い期間あったわけではなく、一度津波があったことによって資料がかなりなくなっている状況である。ただ、ゆかりの寺である了仙寺の資料や、歴史の関係で市史編纂事業も行っているので学術的なところも含め、連携がとれないか図っている。下田市も黒船まつりを開催していて、以前は横須賀市と連携していたこともあったが、最近は連携に関しては下火になっているので、観光面でも民間含めて連携していきたい。また、函館市は函館奉行所を再建して開館している。距離が遠いため、人的交流は難しいが、函館ゆかりの品を預かって展示したり、こちらの品を展示したりしてもらうなどを検討している。金沢藩は把握していなかった。

委員 金沢藩ではなく、六浦藩だった。江戸湾防備やペリー来航時の資料が大量にある。他都市の方がペリー来航時の資料を大量に

持っている。他都市の資料を借りてもいいので、盛大にやってほしい。

委員 浦賀奉行所の企画展について、すでに浦賀の高台に展示室があるが、その活かし方はどうなるのか。

事務局 浦賀ドックの近くにある浦賀コミュニティセンター分館のことだと思われるが、すでに以前と比べてリニューアルをしている。展示については、さらに充実させようとしていて、先ほどの連携を含めて色々できればと考えている。特に展示室は地域の方が主に企画をしているので、その中で別の会議室を借りて、期間限定で企画展を今年も行ったが、来年も地域の方や専門の方を含めて開催して、地域を盛り上げたいと思っている。

委員 ここに載せていないのはどうなのか、管轄違いで掲載していないのか。

事務局 掲載はしていないが、元々、文化スポーツ観光部自体が他部課と連携して行うことになっており、浦賀地区を管轄している浦賀行政センターや浦賀ドックと関係している都市部と連携して進めている。

委員 浦賀ドックについて、やっと芽生えてきた。博物館には所蔵されている資料がまだあると聞いている。先日もフランスから資料を購入して展示をしていた。あれもすごく良かった。所蔵されている物ももっと市民にPRすると良い。下田・函館も良いが、もう少し横須賀が1番だということをやってほしい。

事務局 博物館には開国期の資料も多くあるので、連携していきたい。

委員 ルートミュージアムについて、市民からすると、知っている人は知っているし、知らない人は知らないのが現状である。市民にとって重要な事業なので、今どのような進捗状況で、具体的にどのようなことをやるのかという説明をシンポジウムなどで状況報告をすると、重要さが分かって良い。
他にもアートフェスティバルや街なかミュージックなど、やることは多いが、参加する人がいないと成り立たない。頑張ってPRしていただきたい。

事務局 ルートミュージアム整備事業は平成 30～32 年度で市として推進していく大きな事業の1つである。おっしゃるとおり、ルートミュージアムとは何かと言われることがある。概念的な造語のため、説明を要するものになる。PRすべきという意見はも

つともであり、説明会をという意見もいただいたが、現在その予定はない。32年10月ごろに建物をオープンさせて、そこを区切りとしてスタートさせていこうと思っている。そこに向けて、ハードの整備などをしていくので、途中で説明会を開催するのが難しい。議会からもパンフレットを作成して宣伝してはどうかという意見をいただいた。オープン前に用意して準備していくし、広報よこすかやその他の事業での印刷物等で、機会を見つけて市民にPRしていきたい。

各種事業については、文化振興課以外にも、同じ部の企画課や政策推進課など、他部局としっかり連携していくのが市の方針としてある。連携しながら各事業を宣伝していき、参加者が多くないとやったことにはならないので、盛況に進められるように努力していきたい。

委員

街なかミュージックについて、昨年11月16日のヴェルニー・小栗祭で、フランスの軍楽隊がブルターニュから来ていた。かなり長い時間ブルターニュ独特の楽器を使用して演奏していて面白かった。残念なのは、市民との交流が全くなかった。言葉の問題もあるが、一緒に写真を使ったり、英語で話したりすれば良いのに、一方通行だと文化交流にならない。これからはぜひ交流の時間を設けてもらいたい。数人の方と話したが、向こうも遠慮しているところがあった。市民も積極的に入っていった方が良いのではないか。国際化＝アメリカ化は賛成できない。多言語・多文化の時代なので、横須賀総合高校や県立高校でも、ぜひ、多言語を学んでももらいたい。今の大学院ではフランス語をはじめ色々な国の言葉をやっている人がいるが、仕事がない。大学が1か国でいいとか、複数言語をやらないので、みんな50・60歳になってもアルバイトが圧倒的に多い。横須賀はぜひ多言語・多文化を学んでももらいたい。

委員

国際化というからには多言語を学ぶ機会を、というご意見には同感である。

委員

事業をやっていると項目だけ出てきて、相互のつながりや事業そのものの位置づけが分からない。ルートミュージアムという言葉があつて、ルートは場所のルートだけではなく、時間的概念のルートだったり、時間的経過の概念や特色があつた方が良い。学問的ではなくても、物を並べれば良いので、そういう中で変わってきて、横須賀にしかないとか、それが有形・無形文化財のスタートになる。

事務局

ルートミュージアムや近代の歴史であれば、横須賀製鉄所から

始まる技術などが現代に活かされていることや、ペリー来航時に整列した歩き方などを伝えていくことかと思う。面白い要素、身近なものも含めてルートミュージアムの中に取り入れようという動きはあるので紹介していきたい。近代歴史遺産活用事業では、出前授業の中で講師に話してもらうなどして、今につながっていることを小学生などに話してもらっているので、引き続き行っていきたい。

委員 ペリーが来たときに軍楽隊が整列していて、欧米文化を体育に取り入れているが、もう少し早く日本に入ってきていて、それは横須賀からだ、それで全国の人を引き入れるようにしてほしい。

事務局 歴史に興味のない人も含めて、周りの身近なトピックから横須賀の素晴らしさを身に着けられるように、ルートミュージアムも含めて、近現代が身近にあるということを感じられるようにしたい。

委員 三浦一族が出てくるが、そのあと幕末の話になってしまう。中世から近現代のつながりはどうなっているのか。つながりも紹介して欲しい。

委員 ルートに食文化を取り入れないと楽しくない。ソフトフランスパンや立ち飲み、湯豆腐など、横須賀独特のもので、かつ軍港資料館と関連のあるものを少しでも入れてもらえると、楽しい観光になる。

事務局 近代の歴史をテーマにして、各サテライトである歴史遺産をめぐるというのが、ルートミュージアムである。固く捉えると、砲台跡が多くあり、歴史に興味がある人しか行かないとなってしまうのは、事業がうまくいかない、食文化や植物、地形的なものなど、様々な要素を入れて、その中にフランスパンは横須賀発祥など、食文化に関するものも交えていきたい。そうすると歴史に興味がない人でも、こういうところを巡ってくれるようになるので、ぜひそういう要素を取り入れていきたい。

委員 2017年正月号の広報よこすかに横須賀のソウルフードとして、ソフトフランスパンと中央酒場のホッピー、湯豆腐が掲載されていた。

委員 先ほど交流の話がでたが、それが重要だと思っている。まちかどライブの時にすかっこソーランが旗を振っていたら、アメリカ人の家族が通りかかって、お兄さんが飛び入りで旗を振って

いた。また、風船のイベントをやった時には、アメリカ人の子供が風船を見に来ていた。その場で写真をたくさん撮って、日本でこんな経験をしたと、SNSで発信もしていると思う。どんな良い交流をしても、それが周りに知らされなければなかったのと同じことになってしまうので、横須賀市民全体が横須賀のPR隊として、外にどんどん発信していくのを先導できるようなものが必要である。個人情報などの関係もあって、写真を撮ってその場ですぐというのは難しいが、基本的なルール作りをしたうえで、街なかミュージックもそうだが、出演しているアーティストも出演だけではなく、発信することももっとやってもらいたい。横浜市も神奈川県庁前でストリートライブを始めているので、横須賀でやる付加価値があると良い。

委員 文化の商標登録はあるのか。横須賀だけが権利を持っていて、民間が宣伝するなど。例えば、海軍カレーといった、食文化にかかるものが、ルートミュージアムの中にあると良い。

委員 資料1と2の関係がよく分からない。資料2で、進行管理については平成30～33年度の4年間の管理になるのか。

事務局 平成30年度以降の進行管理である。中には次年度で終わるものもいくつかある。

委員 平成31年度はそれの2年目という位置づけでいいのか。

事務局 平成31年度は2年目になる。

委員 ルートミュージアムという言葉は造語だと言っていたが、用語としてどういうものなのか。一般的に外国人の方も分かる言葉なのか。

事務局 概念としてルートミュージアムと言っている。試してはいないが、外国人の方にルートミュージアムと言っても違う意味に捉えられると思う。

委員 検討の過程で疑義は出なかったのか。

事務局 平成32年10月から本格的に事業をスタートするが、ルートミュージアムという言葉をあちこちで使用して進めていくのかは考えていかなければいけない。多くの方に来ていただくために、観光事業者がルートミュージアムツアーと出したときに、日本人にも分かるのかという疑問はあるので、それを分かりやすく補足することが必要になってくるかもしれない。現在は事業名

としていて、市長の構想としてルートミュージアム構想として
いる。事務局としては、もう少し考えていかないと難しいと思
っている。

委 員 和製英語になってしまう。戻れるのであれば、撤回していただ
きたい。外国人の方も聞いて分かる言葉でないと通用しない。

事務局 概念ということで事業名として使用しているの、ルートミュ
ージアム事業と言っただけでは、なかなか市民も分からないの
で、中身が分かるようなものに変えていかなければいけない。

委 員 この言葉を使っているのは横須賀市だけなのか。WEB 検索をし
ても横須賀市しか出てこない。

事務局 過去の話を知っていると、同様の構想として、横須賀市だけが
始めたわけではなく、他でもやっていると知っている。ルート
ミュージアムという言葉で事業名にしているのは、ないように
知っている。

委 員 この名称で良いのかどうか、ぜひ検討していただきたい。

委 員 和製英語は今時恥ずかしい。ぜひ検討していただきたい。

事務局 検討部会の中で概念として出てきたものを使っている。あくま
でも事業として進めていくための言葉として使用している。日
本人でも外国人の方でも分かるような言葉に変えていかないと
いけない。

委 員 日本語に訳すとどうなるのか。

委 員 日本語で新しい言葉を造るのはいい。英語じゃなく、和製英語
なのは大変まずい。

事務局 おっしゃるとおりである。説明の仕方も含めて考えていきたい。

【審議事項】

次第3 その他について

新横須賀市史の軍事編について、現在在庫がなく、増刷の予定はないのかと
いう質問があった。意見があったことを市史資料室に伝えることとした。